

■井伊直虎 戦国時代の女性領主。国人井伊氏の断絶を防ぎ、許嫁の遺児直政を育て、徳川の最重臣井伊家の道を開いた。	
いいなおとら 天文法華の乱1536＝	この頃、豪族井伊直盛の娘に生まれる。母は友椿尼。生誕地や幼名は不明。 保元の乱で天皇方の勝利に貢献して登場した水が豊富で井の国と呼ばれた遠江井伊谷の地方豪族井伊氏は、南北朝分裂に際し、後醍醐天皇の子宗良親王を預かったことから、北朝側の今川氏との200年に及ぶ抗争に入り、ついに敗れて今川氏に従属、今川氏親が遠江守護になった年に井伊家を継いだ直平が曾祖父にあたり、以後、今川氏の対三河最前線にされる。誕生したのは、今川氏輝が急死して義元が家督を継いだ頃ということになる。父直盛に男子がいなかったため、同年に誕生した直盛の従兄弟にあたる井伊亀之丞(直親)を嫡養子に迎える予定であったが、
今川義元登場1542＝6歳 鉄砲伝来・1543＝7歳 1544＝8歳	今川義元の命で三河を攻めていた祖父直宗が討ち死に、 今川氏与力の小野政直の讒言により、亀之丞(直親)の父直満がその弟の直義と共に今川義元への謀反の疑いをかけられて自害させられ、直親も井伊家の領地から脱出、信濃に逃亡した。
1545＝9歳 ザビエル来日1549＝13歳	直親の命を守るため所在も生死も秘密となっていたため、消息を知らされず気落ち、両親に相談することもなく、大叔父南溪が住職を務める井伊家の菩提寺龍泰寺に駆け込み出家する。両親から尼の名をつけぬよう頼まれた南溪により、次郎法師(次郎と法師は井伊氏の2つの惣領名を繋ぎ合わせたもの)と名付けられ、
1554＝18歳 大陸邦民事件1555＝19歳	亀之丞(直親)は今川氏に復帰するが、信濃にいる間に奥山親朝の娘を正室に迎えていたため、結婚を諦め、以後生涯、還俗しない。
桶狭間の戦い・1560＝24歳 純忠長崎開港1562＝26歳	桶狭間の戦いにおいて父直盛が戦死し、その跡を継いだ直親に、 待望の男児虎松が誕生するも、直親は、家老小野政直の子政次の讒言によって、今川氏真に殺され、自らにも累が及びかけたところを、母友椿尼の兄で叔父にあたる新野親矩の擁護により救われる。
大村純忠受洗1563＝27歳 川中島の戦終1564＝28歳	首祖父の井伊直平が今川氏真の命令で天野氏の犬居城攻めの最中に飯尾連龍に毒殺されたため、 井伊氏は今川氏に従い、引間城を攻めて、新野親矩や重臣の中野直由らが討死、わずか4年の間に、井伊宗家の男子は、わずか3つの虎松のみとなり、地頭職につけなくなってしまったため、龍泰寺改め龍潭寺の住職であった叔父の南溪瑞圃により、幼年であった直親の子虎松(後の井伊直政)は鳳来寺に移され、
將軍義輝自刃1565＝29歳	*井伊氏の当主となり、地頭としての文書も発給。明確な文書は残っていないが、直虎と名乗る。 まさに、南溪が尼にできなかったからこそ、井伊家は断絶から救われたのであるが、外部に対しては、女性であることは厳に秘された。その後も、小野父子の専横は続き、
織田信長入京1568＝32歳	唯一残っているのが「祝田郷徳政之事」への署名であるが、徳政令で大打撃を受ける新興勢力を守るべく、今川氏真と駆け引きしながら先延ばしにしてきたもので、氏真への敗北を示し、小野政次に居城の井伊谷城を奪われてしまい、母とともに、龍潭寺の小庵に落ち延びるが、小野父子の専横に反旗を翻した井伊谷三人衆(近藤康用・鈴木重時・菅沼忠久)に加担した徳川家康の力で、井伊谷城は接收され、今川氏は滅亡する。
京都宣教許可1569＝33歳 三方原の戦い・1572＝36歳	家康に嘆願し、事実無根の罪で直親を讒訴したことを咎め、政次は斬首され磔になったが、 武田信玄が家康に狙いを定め、武田軍が侵攻し、居城井伊谷城は武田家臣山県昌景に明け渡し、井平城の井伊直成も仏坂の戦いで戦死、井伊家累代の親族多数が死去、家康は浜松城に逃れ、井伊谷は焼け尽くされる。その後、武田氏と対した徳川・織田連合軍は敗戦を重ねたが、武田勢は武田信玄が病に倒れたため、
室町幕府滅亡1573＝37歳 長島一揆鎮圧1574＝38歳 長篠の戦い・1575＝39歳	ようやく撤退した。その間、許嫁の直親の遺児虎松(直政)を養子として育て、 回復した龍潭寺で、直親の十三回忌の法要が営まれ、虎松も参列して、井伊家の今後について話し合い、 虎松を実母の再婚相手松下源太郎の養子にした上で、鷹狩り道中に狙いを定めると、家康の目に止まった虎松は、300石で小姓に抱えられ、万千代の名を与えられ、
安土城築城・1576＝40歳 上杉謙信没・1578＝42歳 安土教会許可1579＝43歳 バリヤー/謁見1581＝45歳 本能寺の変・1582＝46歳	高天神城へ家康が出陣するのに供して初陣となり、以後、数々の武勲を挙げ、徳川の重臣になって行く。 母友椿尼が死去。裕圓という尼僧の名を得たらしい。 家康が信長の命で正室築山御前を殺すが、築山御前は井伊直平の孫で父直盛の従妹であった。 万千代が二万石に加増され、武田にも徳川にも仕官せずに井伊家再興を願ってきた旧臣を召し抱えるのを見て、安堵したのか、没した。万千代はようやく元服し、直政と名乗って、家督を継いだ。 墓は井伊家の菩提寺である龍潭寺に許嫁の直親の隣にある。直政は近江国彦根藩祖になり、井伊家は、徳川氏に仕える譜代の筆頭として、徳川幕府時代に12人しかいない大老の半数を輩出する名門になって行く。